

日時： 2011年2月1日（火） 14：00～17：00
 場所： 建築会館会議室
 出席者（敬称略）： 緑川主査、小河、越智、笠井、金子、河野（守）、多賀、田上、竹内、
 多田、田中、玉井、成原、西山、深澤、藤澤、藤田、山田、寺田
 欠席者： 井戸田、内田、河野（昭彦）、桑村、吹田、高松、田川、中込、中島、伏見
 資料：

04-01	2010年度 第4回鋼構造運営委員会議事予定	(緑川)
04-02	2010年度 第3回鋼構造運営委員会議事録（案）	(寺田)
04-03	構造本委員会資料「国土交通省説明会（2011年1月13日）」への出席依頼	(緑川)
04-05	鋼構造接合小委員会 2010年度第5回議事録（案）	(田中)
04-06	2010年度 鋼構造制振小委員会、WG議事録（案）	(笠井)
04-08	鋼構造環境小委員会 2010年度第3回議事録（案）	(藤田)
04-09	第4回 鋼構造素材小委員会 議事録（案）	(山田)
04-10	塑性設計WG 報告	(玉井)
04-11	2011年度 予算原案	(緑川)
04-13	鋼構造座屈小委員会「座屈に関する諸問題2012」企画	(竹内)
04-14	発行図書に対する質疑回答一覧	(多田)
04-15	「各種合成構造設計指針」改定講習会 参加者数	(緑川)
04-16	国土交通省資料「超高層建築物等における長周期地震動への対策試案について」	(緑川)
04-17	機械学会からの引用転載依頼	(多田)

(資料04、07、12 は欠番)

議事

1. 前回議事録の確認（資料04-02、寺田）

- ・事前配布された議事録（案）に対する修正意見はなく、承認された。
- ・実務者として参加していた多賀委員が神戸大学教員へ転職されたのに伴い、次年度からの運営委員会委員を多賀委員から向野聡彦氏（日建設計）へ交替することとなった。向野氏は次回委員会にオブザーバーとして参加する予定。

2. 構造本委員会報告（資料04-03緑川）

- ・前回の鋼構造運営委員会以降、構造本委員会は開催されていない。しかし、昨年12月の長周期地震動に関する国土交通省の意見募集に関連し、国土交通省説明会への出席が中島構造本委員会委員長から依頼され、緑川主査が出席し説明を受けた。「建築学会としても積極的に意見を言うべき」との構造本委員会方針。
- ・次年度の鋼構造運営委員会および各小委員会委員の交替予定を、2月21日までに緑川主査に連絡してください。委員の交替については、3月の構造本委員会での承認事項となる。

3. 各小委員会等報告

資料等に基づき各小委員会、WG の活動が報告・審議された。

1) 接合小委員会（資料04-05、田中）

- ・改定原稿のうち第1～第3章については現在鋼構造運営委員会査読中である。その他の章についても、でき次第査読委員に送付する。

- ・今年中に改定版の出版、講習会開催を予定している。

2) 耐火設計小委員会（河野）

- ・小委員会では、F14Tボルトの高温強度など次回改定に向けた議論を行っている。
- ・小委員会委員を追加する予定であり、個別に交渉中。

3) 環境小委員会（資料04-08、藤田）

- ・リユースに関する事例や新規技術等を調査している。
- ・例えば、リユース部材に対する非破壊の化学成分分析技術などについて、コストも含め詳しく調査している。

4) 素材小委員会（資料No. 04-09、山田）

- ・資料に示すとおり、SN材だけでなくSN材以外の鋼材の機械的性質の統計値等をまとめている。
- ・F値の設定の由来、鋼板の面外曲げに対する許容応力度など、鋼材の材料規格や基準強度、許容応力度の考え方について引き続き調査している。
- ・材料のシャルピー衝撃値や化学成分なども可能な限り統計値を収集したいと考えている。
- ・調査の際には、材料の製鋼時期などについても留意したい（運営委員会要望）。

5) 塑性設計WG（資料04-10、玉井）

- ・WGで方針を議論した結果、塑性設計指針第3版は「塑性崩壊解析を利用した終局強度設計法を目指し、実務者が利用できる指針」とすることとした。
- ・改定指針をまとめるにあたっては、限界状態設計指針や座屈指針等との整合を図る。

6) 制振設計小委員会（資料04-06、笠井）

- ・3つのWG（設計、ダンパー、解析）のうち、ダンパーWGはある程度活動目的を達成し、ダンパーのモデルについての記述はほぼ終了している。また、マイナー則を用いたダンパーの損傷評価についても検討している。
- ・設計WGでは、コンクリートスラブ付き架構やJSSIのテーマストラクチャーをベースにした架構の解析を実施し、架構の保有性能の検討や解析例の作成をしている。

4. 小委員会への次年度予算配分について（資料04-11、緑川）

- ・次年度の鋼構造運営委員会予算は400万円（今年度+62万円）となり、これを資料の通り配分することとなった（小委員会主査了承済）。

5. 重点審議「座屈小委員会の活動について」（資料04-13、竹内）

- ・小委員会報告および2011年度大会PD案を兼ね、資料に基づき報告された。
- ・資料04-13は、2012年度に刊行する予定の「座屈に関する諸問題」の構成案を示している。
- ・2011年度大会PDにおいては、本資料のなかからいくつかの項目に焦点をあて、PDで扱う（会員からの意見を吸い上げる）予定としている。
- ・骨組の座屈に対する新しい解法「Direct Analysis Method」なども扱う予定。
- ・内容について、他の指針との関係にも注意する。

6. 学会図書への質疑回答（資料04-14、多田）

- ・前回の運営委員会以降、2件の問い合わせがあり、ともに回答済。

7. その他

1) 鋼構造運営委員会主査中間選挙結果について（口頭による報告、寺田）

- ・1月13日の開票の結果、運営委員会委員29名のうち投票数25、緑川主査の記名総数25であった。この結果、緑川主査は引き続き選任された。

2) 講習会参加者数について（資料04-15、緑川）

- ・各種合成構造設計指針の改定講習会（会場：東京、大阪、広島、福岡）の参加者数は、合計536名（参加率99%）であった。

3) 機械学会からの引用転載依頼について（資料04-17、多田）

- ・機械学会「発電用原子力設備規格 コンクリート製原子炉格納容器規格（2010年版）」へ建築学会鋼構造設計規準の算定式を引用したい旨機械学会から依頼された。
- ・最新の鋼構造設計規準では、旧版に対し曲げ応力度式だけ改定しているが、既に他の機械学会規格では旧版の曲げ応力度式を引用している。
- ・今回は、旧版からの曲げ応力度算定式の引用となるが、次回改定では最新の鋼構造設計規準から引用するよう機械学会に申し入れ、今回の申し出に対しては「承諾」することとなった。

4) 国土交通省資料「超高層建築物等における長周期地震動への対策試案について」（資料04-16、西山）

- ・資料に基づき「対策試案」の概要が説明された。

5) 鋼管トラス構造設計施工指針・同解説（2002年刊行）の重版について

- ・現在、残が90部となっていて、学会事務局から重版について問い合わせが来ている。
- ・誤字脱字、刊行後の読者からの質疑等を盛り込んで修正し、重版することとする。
- ・越智委員を担当とし、スケジュールなど事務局伏見さんと調整してください。

■次回（2010年度第5回）の鋼構造運営委員会予定

- ・日時 2011年3月28日（月）14：00～17：00
- ・議題 構造本委員会報告、各小委員会報告
重点審議：素材小委員会（その次：塑性設計WG）

■次年度運営委員会、小委員会委員の交替について

2月21日までに緑川主査へ連絡のこと

以上（記録：寺田）